

開催日時：令和6年3月8日（金）10:30～12:00

開催場所：今金町民センター 1F 町民ホール

開催方法：対面＋WEB会議による議事

参加機関：せたな町、今金町、檜山振興局、渡島総合振興局、狩場利別土地改良区、函館地方气象台、渡島森林管理署、森林整備センター北海道水源林整備事務所、今金連合町内会、田代地区連合自治会、函館開発建設部（北檜山市街地町内会は欠席）
※順不同



<議事（1）流域治水協議会の経緯報告と今後の予定について> 資料-1

- ・これまでの後志利別川流域治水協議会（以下、「協議会」という。）開催経緯と後志利別川流域治水幹事会（以下、「幹事会」という。）での報告経緯、後志利別川流域治水プロジェクト（以下、「流プロ」という。）の公表経緯の説明、今後の流プロの公表予定時期について事務局より説明。→異議無し。

<議事（2）規約改定（案）について> 資料-2

- ・各組織改定等による幹事会構成員の役職変更について事務局より説明。→異議無し。

<議事（3）流域治水幹事会の報告について> 資料-3

- ・令和6年1月23日に開催された幹事会での議事事項を事務局より説明。→異議無し。

<議事（4）流域治水プロジェクトの取組について> 資料-4

- ・各機関の流プロ実施状況を事務局より説明（概要は以下に記載）。→異議無し。

<議事（5）流域治水プロジェクト2.0及び自分事化に向けた取組計画について> 資料-5

- ・気候変動による降雨量増加に伴う後志利別川における水害リスクの増大、これに対応するための河川整備に加え、まちづくりや内水対策、ソフト対策等の流域対策の具体的な案の明示（流プロ2.0）。その事業効果について事務局より説明。
- ・住民や企業等が自らの水害リスクを認識し、自分事として捉え、主体的に行動することに加え、流域全体の水災害への取組へと行動を深化させていくことを目的とした後志利別川流域治水協議会自分事化に向けた取組計画の案を事務局より説明。

→異議無し。



<議事（6）意見交換（流域治水の推進について）>

■せたな町■

【流プロ実施状況】

真駒内川さけ観察広場内排水作業場整備、1日防災学校及び避難訓練実施、ハザードマップの更新を実施。

【コメント】

気候変動による激甚化する水害に対し、より一層活発な流域治水の取組が重要である。

当町としても今後も内水対策として、雨水の環境整備の充実を図るとともに水災害の自分事化に向けた取組として防災教育の推進や流域治水の啓発に努めていきたい。



町長 高橋 貞光

■今金町■

【流プロ実施状況】

今金市街地内水対策としてポンプ整備・アクセス路の整備・4tユニットの導入、1日防災学校や関係機関協働防災研修会の開催、総合文化祭による啓発活動を実施。

【コメント】

令和6年度は更なる市街地内水対策として、貯留施設の基礎調査や各種シミュレーションの実施、町の防災ガイドマップの改訂を予定。

引き続き国・道・町・各関係機関が連携を密にし、流域全体の災害を軽減させる流域治水対策に取り組む。



町長 中島 光弘

■ 檜山振興局 ■

【流プロ実施状況】

稲穂2地区における治山ダム基礎調査、北檜山地区・今金地区における植栽・間伐、西兜野排水機場施設の更新・補強・補修を実施

【コメント】

今後起こりうる水害に対し後志利別川流域全体のあらゆる関係者が協働して対策を進めていくことの重要性を改めて強く認識。引き続き治山対策、農業施設の整備を進めるとともに各町で実施している避難訓練や防災教育にも積極的に関わっていききたい。



局長 山田 哲史

■ 函館建設管理部 ■

【流プロ実施状況】

真駒内川、うぐい川、トンケ川、チブタウシナイ川、北桧山排水機場接続水路における河道掘削・堤防整備等を実施

【コメント】

気候変動に伴う水害・土砂災害などの激甚化・頻発化に備えるためあらゆる関係者が協働し水害を軽減させる取組は大変重要と改めて認識。函館建設管理部として、真駒内川等の河道拡幅等の改修工事を進めるとともに、その他河川においても順次、河道拡幅・伐木等を進めていく。



渡島総合振興局
副局長（建設管理部担当） 山谷 公二

■ 狩場利別土地改良区 ■

【流プロ実施状況】

治水協定に基づく真駒内ダムの事前放流等の実施

【コメント】

真駒内ダムの運用について、6月以降の水量確保が困難。田んぼダムとして水田の畦30～40cm程度は貯留効果があると考えるが、長時間の湛水は作物への影響が大きい。出水後の内水面の処理を速やかに行えるよう、各機関で協力体制を取っていききたい。



理事長 酒井 誠一

■ 函館地方気象台 ■

【流プロ実施状況】

気象情報等の提供、1日防災学校にて講義

【コメント】

ホームページ公表のキキクルを活用し自分の居る場所の危険度を確認していただきたい。温暖化により地球全体が変わってきているので、長期の気象予測は難しいが、直近の予測精度は良いので、気象台の発表する最新の情報を使っていただきたい。能登半島地震からわかるとおり、日本中どこへ行っても大きな地震の可能性がある。水害だけではなく、地震により河川流域の状況が変わることもありうる、ということも留意が必要。



台長 中村 辰男

■ 渡島森林管理署 ■

【流プロ実施状況】

今金・せたな地区の国有林野内での森林整備（下刈や間伐）を長期で実施

【コメント】

流域上流に位置する国有林野内での森林整備や治山対策により、水源涵養や土砂流出防止機能を高めることにより、流域治水に寄与するものとする。

今後、林野庁で指定する山地災害危険地区と流域治水、国有林野内における土砂災害危険区域との連携協力を検討したい。



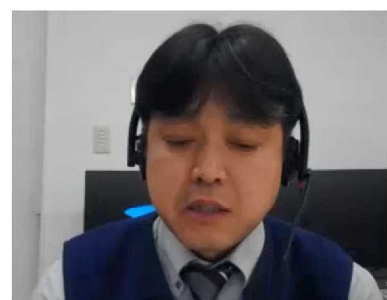
（署長代理出席）
総括治山技術官 瀬尾 隆治

■ 森林整備センター ■

【コメント】

気候変動による雨量・河川流量が増加する試算であることから、流域上流における森林整備を実施し、保水力を高めていくことが重要と考える。

現在、事業地区が無いが、今後事業化された場合、計画的に植栽等を実施し、流域治水の促進に貢献したい。



北海道水源林整備事務所長 木村 伸宏

■今金連合町内会■

【コメント】

各機関において、令和4年8月出水に対する対応を行っていただき、住民も安堵している。

今後整備予定と聞く市街地における貯留施設の効果も伺っている。

住民としては水災害に対する情報がほしい。水害リスクマップ及びハザードマップの最新版の早期完成を要望。

町内会連合会、社会福祉協議会、民政委員会の3団体で連携強化を行っていききたい。

水害に対する危機感を持っている住民は一部。今後は町民誰もが起こりうる地震を想定した防災訓練等を計画している。



会長 天井 幸雄

■田代地区連合自治会■

【コメント】

田代地区は南西沖地震の際、田んぼに亀裂が入る等の被害があった。水害だけではなく、地震にも注意する必要がある地域である。

本日の話を自治会に持ち帰り、自治会でやれる事を再度、考えたい。



会長 仁木 幹雄

■函館開発建設部■

【流プロ実施状況】

愛知地区の河道掘削、田代地区の堤防整備、冷水樋門ゲート改良等

【コメント】

これからの治水対策は流域に関係する各機関で相談連携し総力戦でなし得るものと考えている。

北海道の強みとする食と観光、再生可能エネルギー等を守るため、しっかりとインフラ整備を通じて下支えしていく必要がある。

引き続き地域の安心・安全のため、ご協力をお願いしたい。



部長 岡下 淳